

Equilibrium Res Vol. 74(2)

一般社団法人 日本めまい平衡医学会理事会議事録

平成26年11月5日（水）12時30分～14時（於：パシフィコ横浜 315会議室）

出席者：鈴木 衛（理事長） 飯田政弘，伊藤彰紀，伊藤八次，宇佐美真一，喜多村 健，將積日出夫，
内藤 泰，矢部多加夫，山下裕司，山嵜達也，山根英雄（各理事） 肥塚 泉（第73回学会長）
深谷 卓，山本昌彦（各監事） 竹森節子，二木 隆，古屋信彦，吉本 裕，渡辺行雄（各顧問）
小川恭生，坂本達則（各幹事） 横田倫子（事務局）

* 理事は13名，監事は2名出席したので，会は成立した。

* 第73回肥塚泉学会長より挨拶があった。

【協議事項】

1. 理事会議事録（平成26年9月18日）について確認作業を行い，一点修正した上で承認した。
2. 参与について鈴木理事長より提案があり，五十嵐秀一，石崎久義，大橋直樹，喜多村 健，木村洋，鈴木 衛，中村節子，山根英雄各会員の8名を理事会より推薦することとした。法人定款施行細則上，本人の承諾を得た会員に理事長が委嘱する予定である。
3. 用語委員会（山下理事）より以下の用語について，前回の理事会での討議を受けた形の提示があり，これを承認し，代議員会及び専門会員の会，会員総会にて報告することとした。
 - ①回旋性眼振の記載について：患者（被検者）の眼球上極における眼振急速相の方向によって決定し，右向き回旋性眼振または左向き回旋性眼振という記載に統一する。
なお，販売中のCD-ROM内の表現については，現版分は旧来の表現のままとする。
 - ②“Light cupula”について：方向交代性下向性頭位眼振を示すBPPV症例で，canalolithiasisとは異なる所見を有する病態の説明に用いられる概念。確立した概念ではないので，論文投稿に際しては，「So called（所謂）“light cupula”」として用い，引用文献を示す必要がある。

【報告事項】

1. 学会会員の異動について，庶務（矢部理事）より報告があった。
2. 事業及び会計監査（平成26年9月18日開催）について，深谷監事より適正であった事が報告された。
3. 専門会員資格審査委員会（矢部理事）より，今回は1名の応募があり審査の結果，佐藤 豪会員（徳島大学）を合格とし，代議員総会へ推薦することとした。
4. めまい相談医の推薦について，めまい相談医制度運営委員会（喜多村理事）より，今年度は33名より申請があり審査の結果，内30名をめまい相談医として代議員総会へ推薦することとなった。次年度より耳鼻咽喉科以外の学会への広報にも力を入れるとの報告があった。また医師講習会や学術講演会の際に，めまい相談医を対象とした講義内容を設けるよう各会長へ依頼することとした。
5. 学会のあり方委員会（内藤理事）より，めまいの初期診療のためのマニュアルについて作成を検討している旨報告があった。また，臨床検査技師によるめまい診療の関わりについて調査を検討している旨の報告があった。
6. ER誌編集委員会（將積理事）より，教育講座の新シリーズとして「めまい・平衡障害と遺伝子」を開始した事が報告された。また学会時シンポジウムやパネルディスカッションの内容の論文に加え，夏期セミナーもその講義内容によって，論文の投稿を依頼することとした。
7. 渉外広報委員会（伊藤八次理事）より，学会ホームページのリニューアルと更新作業を専門業者へ委託した場合の費用等とその利点等について検討中であることと英文版の作成を進めることが報告された。
8. セミナー委員会（矢部理事）より，来年の開催内容について説明があった。来年以降は，めまい相談医向けの講義内容を設けることも検討していく予定である。
9. 診断基準化委員会（池園理事）より，8月に実施された温度刺激検査に関するアンケート調査の結果について報告があった。現在，各診断基準に関する国際基準，国内基準ともに改定をすすめており，

学会誌上でも公表していく予定である事が報告された。

10. 医療保険委員会（飯田理事）より、引き続き診療報酬項目改定の要望や保険定数の改定について検討中であるとの報告があった。
11. 国際学術委員会（内藤理事）より、韓国平衡学会やバラニー学会、国際メニエール病学会等と交流し、診断基準等の国際化や英文化について進めていく方向であることが報告された。
12. 用語委員会（山下理事）より、めまい診療に関する用語について調査をする事業計画が報告された。
13. 日耳鼻関連学会ガイドライン連絡担当委員について、鈴木理事長より、池園理事を推薦し就任された旨報告があった。
14. 第74回（平成27年度）学会会長の伊藤八次会員（岐阜大学）より、会期を2015年11月25日から27日、会場を長良川国際会議場と岐阜都ホテルとして開催する計画をたてている旨の説明があった。
15. 第75回（平成28年度）学会会長の土井勝美会員（近畿大学）より書面にて、開催日、会場等の予定が報告された。
16. 第76回（平成29年度）学会会長に宇佐美真一会員（信州大学）を理事会から代議員総会へ推薦し承認を得る予定であることが報告された。
17. 「Inner Ear Biology Workshop 2014 in Kyoto」について、伊藤壽一会長（京都大学）の代理で、坂本幹事（京都大学）より、後援の御礼と成功裡に終了した旨報告があった。

Equilibrium Res Vol. 74(2)

第73回一般社団法人日本めまい平衡医学会代議員総会議事録

日 時：平成26年11月5日（水）14時～15時30分
場 所：パシフィコ横浜 303, 304会議室

1. 定時代議員総会を開催する。
議決権のある代議員総数79名、出席代議員数（委任状による14名を含む）68名
以上のとおり代議員の出席があったので、定款の規定により、理事長・鈴木 衛が議長として、本代議員総会は適法に成立した旨開会を宣し、議事録署名人として、代議員より瀬尾 徹会員、柿本章仲会員を指名、承認して議事に入った。
2. 肥塚 泉第73回学会長より挨拶があった。
3. 平成26年度事業報告に関する件
別紙の通り庶務・内藤理事より報告された。
4. 平成26年度 貸借対照表及び正味財産増減計算書に関し、承認を求める件
表記について経理・山根理事より説明報告があり、深谷監事により平成26年9月18日に事業及び会計監査を行ったことが報告され、満場異議無く承認された。
5. 平成27年度事業計画報告
別紙の通り庶務・内藤理事より報告された。
6. 平成27年度収支予算書報告
表記について経理・山根理事より報告された。
7. 法人定款第13条及び第19条の改定に関し、承認を求める件
鈴木理事長より改定文案について説明があり、以下のように改定することが承認された。
第13条 当法人に、理事11名以上13名以内、監事2名以内の役員をおく。役員任期は、選出された定時代議員総会期の翌日から、選出後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時代議員総会期の終結日までとし、再任を妨げない。ただし、役員連続在任は3期までとする。
第19条 顧問の任期は、承認された定時代議員総会期の翌日から、選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時代議員総会期の終結日までとし、再任を妨げない。
8. 委員会報告及び承認
 - 1) 専門会員資格審査委員会より（宇佐美理事・矢部理事・山唄理事）
専門会員資格審査委員会による審査を経て理事会からの推薦により、佐藤 豪会員が新専門会員として承認された。
 - 2) めまい相談医制度運営委員会より（喜多村理事兼委員長・山根理事）
運営委員会による審査を経て理事会からの推薦により、今年度30名の会員がめまい相談医として承認された。
 - 3) 学会のあり方委員会より（内藤理事・矢部理事・山下理事）
初期診療マニュアルの作成を検討していることが報告された。
 - 4) ER誌編集委員会より（伊藤彰紀理事・伊藤八次理事）
平成26年度の投稿論文数が22本であることと、受理から掲載まで約5ヶ月である事が報告された。
 - 5) 渉外広報委員会より（伊藤八次理事・山唄理事）
学会ホームページのリニューアル作成及び更新作業等を外部委託することを検討していく旨、報告された。また、英文版のホームページも作成を進める。
 - 6) セミナー委員会より（宇佐美理事・矢部理事・山唄理事）
平成27年度夏期セミナーを平成26年7月25日（土）に予定しており、テーマは「EBMに基づいためまいの薬物投与について」「めまいと眼振：眼振の記録法の推移」とする予定であることが報告された。
 - 7) 診断基準化委員会より（飯田理事・池園理事・伊藤彰紀理事）
ENGと重心動揺計の規格を学会ホームページ上に公表した。温度刺激検査に関するアンケート調査を実施した。診断の国内基準、国際基準ともに改定を進める。

- 8) 医療保険委員会より（飯田理事・將積理事）
学会に関係する保険診療報酬についての要望を継続して行う。
- 9) 国際学術委員会より（内藤理事・池園理事）
今期より新設され、診断基準等の国際化や英文化について進めていくことが報告された。
- 10) 用語委員会より（山下理事）
以下の用語について決定したことが報告された。
回旋性眼振の記載について：患者（被検者）の眼球上極における眼振急速相の方向によって決定し、
右向き回旋性眼振または左向き回旋性眼振という記載に統一する。
なお、販売中のCD-ROM内の表現については、現版分は旧来の表現のままとする。
“Light cupula”について：方向交代性下向性頭位眼振を示すBPPV症例で、canalolithiasisとは異なる所見を有する病態の説明に用いられる概念。確立した概念ではないので、論文投稿に際しては、
「So called（所謂）“light cupula”」として用い、引用文献を示す必要がある。
また、用語に関する調査を実施することが報告された。
9. 学会賞発表
学会賞選考委員会より推薦があり、理事会にて選考した結果、稲垣太郎会員（東京医科大学）の「ウシガエル循環障害モデルにおける末梢前庭器の形態変化」と牛尾宗貴会員（東京山手メディカルセンター）の「一側性メニエール病症例が両側性に移行する要因についての検討」が選出された旨の報告があった。
10. 第74回（平成27年）総会・学術講演会に関する件
次期会長である岐阜大学・伊藤八次会員より、平成27年11月25日～27日に岐阜市（長良川国際会議場・岐阜都ホテル）での開催に向けて準備を進めているとの挨拶があった。
11. 第75回（平成28年）総会・学術講演会に関する件
近畿大学・土井勝美会員に決定している旨、報告された。
12. 第76回（平成29年）総会・学術講演会会長に関し承認を求める件
信州大学・宇佐美真一会員を理事会より推薦し、承認された。

議長は、以上の本日の議事終了を述べ、15時30分に閉会した。

以上の決議を明確にするため、この議事録を作成し、議長及び議事録署名人2名がこれに記名押印する。

平成26年11月5日

第73回一般社団法人日本めまい平衡医学会代議員総会
議長・代表理事 鈴木 衛 印
議事録署名人 瀬尾 徹 印
柿木章伸 印